※令和４年度以降入学生用

学校番号	328

令和５年度　書道科

教科	芸術	科目	書道Ⅱ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	新編　書道Ⅱ　（教育出版）						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

2 年次は１年次で学んだ書道の基礎的技術や知識を生かし応用的な作品を作ってもらいます。1 年次とは大きく授業内容が変わりますが改めて一から教えますので大丈夫です。小学校や中学校で学んだ書写から書道へと発展し、それを更にアートの領域にまで高めます。時間的には少し急き立てられる感じはありますが、潤沢に時間を費やしレベルの高い作品を作ることを目標にしましょう。

２　学習の到達目標

長時間をかけて一作に対し精査に取り組む。基本的な用具用材の使用法を熟知する。
筆で文字を書くことへの抵抗感をなくし、自分なりの新しい何かを生み出す喜びを知る。自己表現の楽しみや奥深さをしり、物を作り出す喜びに浸る。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	作品表現をするための基礎的な技術やその多様性を理解する。また、正確な筆の動きを習得し、それを更に高いレベルで適切に表現しようと努める。また、それを生かした表現を自分自身でも理解し活用しようと努めているか否かを考える。	作品制作の奥深さや面白さを感得し、自らの感性を養い、またそれを活用しつつ自己表現の喜びを知る。書道を活かした作品の美を味わい深く捉えている。	作品制作に関し、自ら積極的に創意工夫し取り組む。また、他者へのアドバイスを通し積極的に作品制作の意図を理解、習得しようとする。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)

※令和４年度以降入学生用

1	小筆の特訓	3種類の小筆教材を使用し徹底した小筆の習得に挑む。その際、手紙の書き方、色紙の使用法も教示する。	a:積極的に授業を聞き、能動的に上達しようとする姿勢が見える。 b: 文字造形の基礎的な捉え方を理解し、再現しようとしている。 c:応用的な技法を積極的に習得しようと努力をしている。	提出作品と授業観察	提出作品と授業観察	授業観察
	作品制作1	レースパターンによる作品制作	a:適切に小筆を使えているか。 b:複雑な柄を連動的にとらえているか。揮毫する文字と柄の連動を考慮しているか。 c:線数の多い複雑な作品への工夫がみられるか。	提出作品と授業観察	提出作品と授業観察	提出作品と授業観察
2	作品制作2	短線画による作品制作	a:小筆と顔彩の適切な使用とその活用が見受けられるか。 b:柄と文言の連動性に工夫が見受けられるか。 c:よりレベルの高い作品への挑戦が見受けられるか。			
	作品制作3	モザイクパターンによる作品制作	a:作品制作の意図が把握出来ているか。 b: 柄と文言の連動性に工夫が見受けられるか。 c:よりレベルの高い作品への挑戦が見受けられるか。			
3	篆刻	作品への押印のためのハンコ作成	a:作品に対して適切なハンコを作ろうとしているか。 b:押印の位置等、作品への連動性がみられるか。 c:自己の作品を更に高めようとする意欲が見受けられるか。			
			a: b: c:			

※令和４年度以降入学生用

※　表中の観点について　a:書への関心・意欲・態度　b:書表現の構想の工夫
c:創造的な書表現の技能　d:鑑賞の能力

※　原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について〇を付けている。